

女性の活躍を広げるために 授乳体験から始まった起業への道

起業に至るきっかけや思いは？ 日本の女性がストレスフリーで出産、育児、仕事をこなしていくためには？ 保育所の待機児童が大きな社会問題となっている昨今。今回は、授乳服専門店であり、子連れ出勤ができる場所も提供する「モーハウス」を立ち上げた光畑由佳さんに登場いただき、熱いお話をうかがいました。

女性の視点を活かした起業

すべては授乳体験から始まった

起業を思い立った経緯は…

次女が生まれてひと月後、東京の友人宅を訪ねようとJR中央線に乗ったことからです。住んでいたくぼから3歳の長女と次女を連れての「長い道中」ではありません。車内で突然次女が泣き出したのです。空腹のせいと分かり、ためらいはありましたが仕方なく、ブラウスの前を広げて授乳しました。子どもはおとなしくなりましたが、周囲の視線を浴び、なぜかいたたまれないような自

分の気持ちに気づいたのです。そのとき、育児中のお母さんたちがなかなか外出しようと思わない訳が分かった気がしました。こんなことがあるのかと、腑に落ちたんです。

そして、人目を気にせず授乳できるように服があればいいの…と思いついたんです。

公共施設に授乳室を用意してほしいとか、電車で女性専用車両を作してほしいとかいう声はよく耳にします。

確かに授乳できる場を作るのもひとつの方法ではあるでしょうが、作るには時間もかかる。しかも子連れで

移動できるのが授乳室があるところと限定されてしまいます。でも、服なら、自分で着るだけでいいんです。大学の被服学科で学んだ知識を活かし、縫製の出来る人と一緒に試行錯誤しながら授乳服を作りあげました。着用してみたら、なんとこの解放感！これは是非お母さんたちに勧めたい、同時に子育て中の女性たちの我慢を減らしたい！ そう思ったんです。

どうも日本の女性たちの中には、子育てというのは自分の我慢と引き換えにあると信じている人が多いようです。だから外出はできるだけ控えて、家の中でいじこいでいるべきなんだ、と。あるいは、子育てしているときは子どもが最優先なのだから、自分の願望などは抑えるのが当然だ、と。子どもを連れて外出しても、子どもに泣かれたら怖いし。こんなふうになんとなく引け目を感じている

お母さんたちが実は多いんですね。たしかに私自身にも経験があります。出産予定のひと月前はたいへん充実した気持ちで仕事をしていました。明日生まれるかもしれないから今のうちにやっておこう。そんな気持ちで毎日を過ごしていたからです。でも、それって、産んだら何もできないという無意識の裏返しだったんだと、あとで気づきました。

授乳服を着てみたら、外で子どもに泣かれるのも怖くない。どこにでも出かける。そう感じて、独身時代と同じように自信がよみがえってくるはずですよ。出産しても何でもできるという気持ちを周りに伝えたいと強く思いました。

子連れ出勤で女性の可能性を広げる

子連れ出勤を始めた理由は、ほかでもありません。育児も仕事も家事もす

べてやりたいと思ったからなんです。

中央線での出来事から2カ月後には、授乳服を売り始めました。まずは周りの人脈が頼りでしたね。当初はつくばの自宅を開放して仕事をし、やがてモーハウスをつくばに立ち上げ、8年後には青山にも開店しました。子連れでも働けることを示したかったので自分はもちろん、お店でも子連れのスタッフを採用しています。

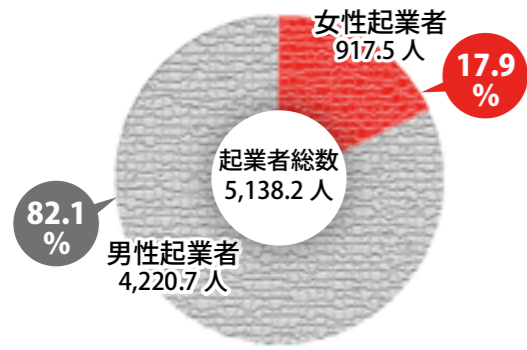
そもそも出産後の女性たちが、専業主婦でいくか、子どもを保育園に預けて働くか、という二者択一を余儀なくされているというのをおかしいでしょう。授乳服を通して、それ以外の選択肢もあることを伝えたいですね。

私自身や仲間たちは、子どもを育てながら仕事もしたいを実践するために子連れ出勤をしました。

スタッフたちも、保育園に子どもを入られなかったから、子連れ出勤にしたわけではありません。このスタイルなら子どもを保育園に預ける必要がないから、お金もかからないし、送迎の手間もいらぬ、キャリアも断絶しない、とこころづくめです。

こつした子育て、働き方を選んだことで度々取材を受けるようになりました。最初は、なぜ私なんだろうと不思議に思いましたが、子連れ出勤という働き方が実は発信する価値のあるものだと気がついたので。

【資料】 男女別起業家数及び割合



出典：総務省統計局 平成24年就業構造基本調査



▲子連れ出勤中のスタッフの方々。「子連れ出勤ができる会社として独身時代から注目していました」「授乳しながら接客できます！」と語ります。



Profile

光畑由佳 (YUKA MITSUHATA)
有限会社モーハウス 代表

1986年：お茶の水女子大学被服学科卒業。美術企画、建築関係の編集者を経て、1997年「モーハウス」の活動を開始。
2005年：東京・青山に直営ショップを開店し、愛・地球博にて「授乳ショー」を開催。
2009年：内閣府 女性のチャレンジ賞受賞/日本商工会議所 女性起業家大賞 グロース部門優秀賞受賞
2014年：北京APEC女性と経済フォーラム「日本代表スピーカー」を務める。
茨城県ユニセフ協会評議員。茨城大学社会連携センター特命教授。筑波大学大学院非常勤講師。三児の母。
今年、創立20周年をむかえた。

▲にごやかに自然体で話してくださる光畑さん。青山店には、東京コレクションのデザイナーさんとコラボして作ったコート、普段着のTシャツからフォーマルにも使えるお洒落なワンピースまでがずらりと並ぶ。もちろん、すべて機能的な授乳服！